

## 第 50 回記念熱測定討論会を開催して

2014 年 9 月 28 日（日）－30 日（火）の日程で、第 50 回記念熱測定討論会が大阪大学豊中キャンパスの全学教育推進機構講義棟・スチューデントcommons において行われました。構造熱科学研究センターの専任、兼任スタッフを中心に、工学研究科の内山 進先生、近畿大学の神山 匡先生に組織委員会に入って頂き、無事開催の大役を務めることができました。またセンターと化学専攻物性物理化学研究室の学生の皆さんにもアルバイトとして全面的に協力頂きました。

1965 年に第 1 回の熱測定討論会を開 集三先生が大阪大学松下会館で開催されて依頼、大阪大学が組織委員会となり過去 6 回の開催がなされてきました。その中でも、第 20 回、25 回（いずれも実行委員長 菅 宏先生）、30 回（実行委員長 徂徠道夫先生）と節目となる討論会が大阪で開催されてきました。また、最近では 2006 年に、稲葉 章前センター長が、日本熱物性学会とのジョイント開催となる大きな討論会（第 42 回）を京都大学で開催されました。熱測定討論会や熱測定学会の歴史は、阪大のセンターにとっての歴史でもあり、センターではその設立以来、所先輩方、卒業生の皆様が、常に学会と深く関わりながら熱による科学研究を進めてきました。

半世紀の記念討論会を行うにあたり、熱測定学会の幹事会でも討論会 50 回のお祝いと同時に、昨年 40 年を迎えた日本熱測定学会の設立 40 周年の記念もかねたかたちで記念事業を行うことが決まり、吉田博久先生（首都大学東京）のもと準備委員会がたちあがりました。メンバーは齋藤一弥先生（筑波大）、花屋実先生（群馬大）、山崎淳司先生（早稲田大）、西本右子先生（神奈川大）で、大阪大学から中澤が委員に入ることになりました。委員会では、50 回の記念討論会にあわせて、過去を振りかえるとともに将来を見据えるような記念式典と祝賀会の開催、将来にむけて 50 年の記念特集号を残すということがまじりました。討論会の開催の候補地として、大阪での開催はどうかと委員会でもご示唆頂きましたので、是非やらせて欲しいと開催に立候補することに致し、幹事会でも承認して頂きました。開催が決まったのは良いですが、大変になるのは明らかです。まず大きな学会との重複をさけるような日程を探し、また豊中キャンパスでの開催になるため、講義をさけての日程調整になります。さらに大きな式典を予算制約のある中で、という条件も入り、様々な観点から検討した結果、大阪大学会館と全学教育推進機構棟で行うことがベストということになりました。学期の始まる直前で、しかも日曜日にかかってしまいましたが、日程的には丁度良かったかもしれません。

前日に故関 集三先生の追悼のための構造熱科学国際シンポジウム (ISST2014)

を行うこともきまり、このシンポジウムの準備から発表、討論会の会場設営やその運営、若手の会、シニアの会、中日の記念式典の開催、祝賀会、さらにはポスター・企業展示の設営と管理と、膨大な作業と分刻みのスケジュールの中、スタッフ、学生の皆さん全員の協力のもと、大きなトラブルもなく無事に4日間のイベントを終えることができました。日曜日が初日に入っていたにも関わらず237名もの参加者がおり、3会場に分かれたセッションでは59件の口頭発表、77件のポスター発表、さらに2件の全体講演（Brain Woodfield 先生、Jean-Luc Garden 先生）、2件のキーノート招待講演（Ove Andersson 先生、Li-Xian Sun 先生の代理の Shujin Qiu 先生）がありました。全体で140件の発表があったこととなります。プログラムは、(1) 熱測定基盤、(2) 磁性体・錯体、(3) 液体・溶液・集合体、(4) 金属・無機固体・セラミックス、(5) 生体・医薬、(6) 高分子・有機物、(7) エネルギー・環境にわけて組まれていましたが、どの会場でも白熱した討論がなされました。式典や多数のイベントが並行するため、プログラムの調整、座長の選出などプログラム委員会でも苦労しましたが、結果的には大きなトラブルがなく、どのセッションも比較的順調に進みました。また、若手の会は物性物理化学研究室の博士後期課程2年の吉元 諒君が中心となり、企画しました。分野の異なる人たちをうまくまとめ、盛大な会になり、参加した皆さんに若手の活躍が印象的だったというコメントを頂きました。シニアの会の会場は、今年度から、ポスドクで来た名越篤史さんに担当して頂き、関研究室のアルバムや偲ぶ会のビデオなどを上映していただきました。関先生を偲ぶシニアの会として、参加された先生方が関先生との思い出をお話しされました。また、海外からご参加していただいた4名の先生と、センターの客員教授として討論会にあわせて来日してくれた Kruchinin 先生、ご協力頂いた理学研究科、全学教育推進機構の皆様にあらためて御礼申し上げます。

討論会期間中に行われた総会では、徂徠道夫元センター長ら4名（うち1名はご欠席）が名誉会員に推戴されました。木村会長から名誉会員賞が贈られました（写真は、推戴式のときのものです）。

9月に入ってから良い気候が続いていましたが、直前に台風が発生したりで少し心配したりもしましたが、3日間本当に好天に恵まれ、本当に50周年に相応しいイベントになったのではないかと思います。参加された方々から多数の御礼のメールを頂き、逆に恐縮してしまいました。企画から、準備、当日の運営とあわただしい時期が続きましたが、50周年の記念討論会に貢献することができ、センターとしては非常に良い機会を頂きました。残念なことは、この50周年を本当に楽しみにされておられた関 集三先生が直前の2013年の年末ご逝去されたことです。参加は適わないまでも、何等かの書面をいただければ式典や討論会の席でお読みできればと思っておりましたが、大変に残念です。関先生

のご冥福をお祈りしたいと思います。

(中澤康浩)



討論会会場の立て看板



討論会の様子



総会での徂徠先生ら3名の名誉会員の推戴式